



OSAKA TOIN HIGH SCHOOL

BASEBALL TEAM

試合ごとに強くなり
夏の王者に



甲子園2014・夏
第96回全国高校野球選手権大会
優勝記念特集

Special Issue
NeOSU
学園ニューズレター[ネオス]特別号



全員野球で 勝ち取った栄冠

急成長の夏 2年ぶりに頂点へ

第96回全国高校野球選手権大会(日本高校野球連盟、朝日新聞社主催、毎日新聞社後援、阪神甲子園球場特別協力)は8月25日、兵庫県西宮市の阪神甲子園球場で決勝を行い、大阪桐蔭が三重を4-3で破り、春夏の甲子園を連覇した第94回大会(2012年)以来2年ぶり4回目の優勝を果たした。優勝回数はPL学園(大阪)と並び4位となった。春夏通算では5度目の優勝で横浜(神奈川)と並び5位に浮上した。

8月25日(月)

決勝

三重戦
(三重)

午後1時1分開始(観衆47,000人)

三	重	0	2	0	0	1	0	0	0	0	3
大阪桐蔭	0	1	1	0	0	0	2	0	X	4	

大阪桐蔭は苦しみながらも終盤に逆転し、栄冠を手にした。二回に2点を先取されたものの、その裏、福田の右前適時打で1点差とし、三回に香月の中犠飛で同点に追いついた。五回には失策なども絡んで再び勝ち越しを許したが、七回に四死球と福田の中前打で満塁とし、2死から中村が浮いた球を逃さず中前へ運び、2点適時打として逆転した。準々決勝以降3試合連続登板となった先発の福島は11安打を浴びながらも、六回以降無失点と粘り強く投げ、七回にこの試合初めて奪ったリードを守りきった。七回1死三塁の場面でスクイズを外し、三塁走者を挟殺したのも大きかった。

二回、福田が右前適時打を放つ



三回、香月の中犠飛で同点に



力投する先発の福島

福田の適時打で横井が生還



七回、中村が中前2点適時打を放ち、逆転



三	重	打	安	点	振	球
⑧	長野	4	3	0	0	1
④	佐田	3	1	0	0	0
H	鈴木	1	0	0	1	0
⑥	宇都宮	4	2	1	0	1
③	西岡	4	0	0	0	0
⑦	稲葉	4	2	0	0	0
7	松村	0	0	0	0	0
⑤	山井	2	0	0	0	0
H	内田	2	1	0	0	0
⑨	世古	2	0	0	0	1
1	森	0	0	0	0	0
1	瀬戸上	0	0	0	0	0
②	中林	4	1	2	0	0
①	今井	4	1	0	1	0
犠	盗	失	併	残		
2	1	0	1	9	34	11
3	2	3	2	3		

投手	回	打	安	振	球	責
今井	7	29	7	5	2	4
森	⅓	2	1	0	0	0
瀬戸上	%	3	0	0	1	0

大阪桐蔭	打	安	点	振	球
⑦	中村	4	2	2	1
④	峯本	4	2	0	1
⑤	香月	3	1	1	0
③	正随	3	0	0	0
⑨	青柳	2	0	0	0
②	横井	3	1	0	0
⑧	森	3	0	0	1
⑥	福田	3	2	1	0
①	福島	3	0	0	2
犠	盗	失	併	残	
3	0	1	2	6	28
8	4	5	3		

投手	回	打	安	振	球	責
福島	9	39	11	2	3	2

- 二塁打 稲葉(三)、中林(三)、中村(大)
- 犠打 佐田(三)、世古(三)、香月(大)、正随(大)、横井(大)
- 盗塁 長野(三)
- 失策 福島(大)
- 暴投 今井2(三)
- 試合時間 1時間41分
- 審判 (球審)古川(塁審)橋、大槻、土井

8月15日(金)
1回戦
開星戦
(島根)

苦しんだ初戦 奮起のきっかけ



二回、福田が
中壘弾を放つ

福田の中壘飛で
青柳が生還

暴投で森も生還



三回、峯本が
適時二塁打を放つ



四回、横井が
適時二塁打を放つ

午後0時18分開始(観衆47,000人)

大阪桐蔭	0	2	1	1	1	2	0	0	0	7
開星	4	0	1	0	0	0	0	1	0	6

大阪桐蔭は4安打ながらも相手ミスにも乗じて7得点し、辛くも逆転勝ち。先発した2年左腕・田中は立ち上がりから球が浮き、一回に5長短打などで4失点。それでも二回、四死球に暴投も絡めて無安打で2点を返し、さらに五回1死一、三塁からボークで同点に。六回には敵失で勝ち越し後、ボークで追加点を奪った。六回から登板の3年生右腕・福島は先頭打者に死球を与えたものの、変化球を散らして後続を断ち、七回以降は本塁の手前で落ちるチェンジアップを軸に逃げ切った。

8月19日(火)
2回戦
明德義塾戦
(高知)

自慢の強打で 真っ向勝負

午後2時25分開始(観衆45,000人)

大阪桐蔭	2	0	2	1	0	0	0	0	0	5
明德義塾	0	1	0	0	0	0	0	0	2	3

大阪桐蔭が序盤のリードを守りきった。一回に香月の右越え2点本塁打で先制。三回1死一、三塁から森、横井の連続適時打で2点を加え、四回に正随の適時打で5点目を挙げた。先発した右腕・福島は10安打されながらも、要所を締めて完投。七回の1死満塁のピンチはカットボールでタイミングをずらし、味方の好守にも助けられて2者を凡飛に打ち取った。九回、2死から明德義塾の4番・岸に2点本塁打を浴びたものの、最後は空振り三振にしのぎ逃げ切った。



一回、香月の2点本塁打で先制

三回、森が左前適時打



三回、横井の左前適時打で4点目

四回、正随の中前適時打で5点目

六回、香月が右前適時打を放つ



八回、横井の2点適時打で10点目



完封勝利し笑顔を見せる田中



8月21日(木)
3回戦
八頭戦
(鳥取)

田中が完封 打線も圧倒16安打

午前10時41分開始(観衆37,000人)

大阪桐蔭	0	0	0	5	0	1	0	4	0	10
八頭	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

大阪桐蔭が16安打で10得点を挙げ、投打に八頭を圧倒した。四回1死満塁から福田が四球を選び先制。さらに二つの押し出し四死球と香月の2点内野安打などで八頭の先発・鎌谷の制球の乱れを突いて一挙に5点。八回には5長短打を集めて4点を加えた。3番の香月は六、八回にも適時打を放ち、4安打4打点の活躍。先発の田中は緩急を生かし、散發3安打で完封勝利を果たした。



三回、正随の2点適時二塁打で逆転

8月22日(金)
準々決勝
健大高崎戦
(群馬)

狙い球 一撃 長打で競り勝つ



七回、中村が左越えに2点本塁打を放つ

午後1時8分開始(観衆42,000人)

大阪桐蔭	0	0	2	0	0	0	2	1	0	5
健大高崎	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2

大阪桐蔭が効果的な長打攻勢で競り勝った。一回に盗塁と犠打などで無安打で先制されたものの、三回2死一、二塁から、正随の2点適時三塁打で逆転。四回に追いつかれたが、七回に中村の左越え2点本塁打で勝ち越した。先発の右腕・福島は走者を出しながらも粘り強い投球で完投した。



一回、中村が本塁打を放つ



四回、森が右翼ホール際へ大会第36号の2点本塁打



四回、峯本の中前適時打で再び同点



四回、正随の右中間を破る2点適時三塁打で勝ち越し



六回、香月が左中間を破る2点適時二塁打

8月24日(日)
準決勝
敦賀気比戦
(福井)

初回到5失点 猛打で吹き飛ばす

午後1時28分開始(観衆47,000人)

敦賀気比	5	0	1	0	2	0	1	0	0	9
大阪桐蔭	3	2	0	5	0	3	0	2	X	15

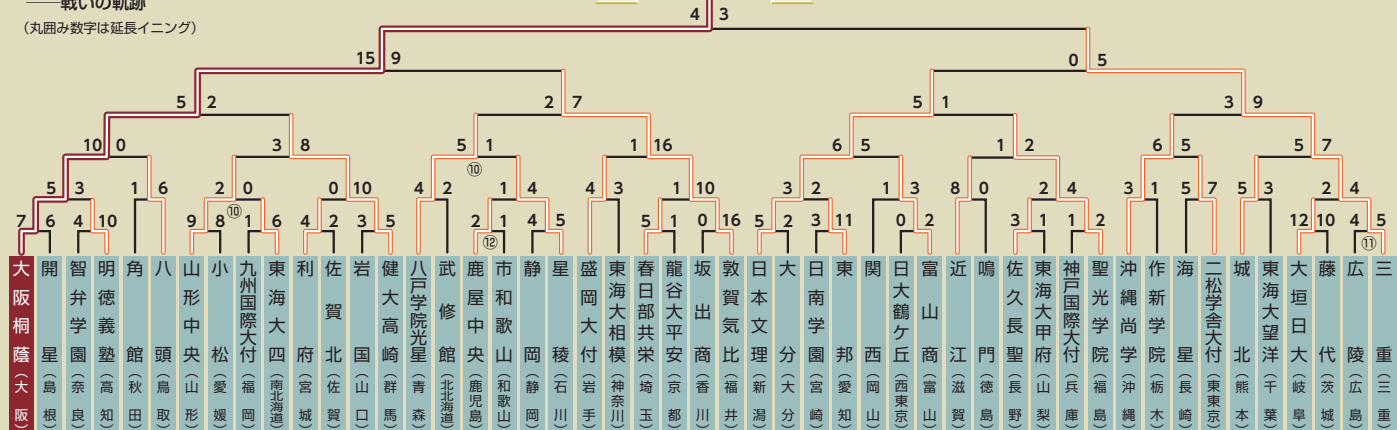
大阪桐蔭が両チーム合わせて27安打の打撃戦を制した。一回に4連打と満塁本塁打で5点を先制される立ち上がり。しかし、その裏、中村の2試合連続となる本塁打を含む3安打に四球を絡めて3点を返し、二回には峯本の2点本塁打で同点とした。三回にソロで勝ち越しを許したものの、四回に峯本、正随の適時打と森の2点本塁打で計5点を奪って逆転。六回、香月の2点適時二塁打で突き放した。六回まで、選んだ5四球をすべて得点につなげる試合巧者ぶり。先発の福島は15安打で9失点を許しながらも完投した。



●第96回全国高校野球選手権大会
——戦いの軌跡

(丸囲み数字は延長イニング)

優勝 大阪桐蔭



声を合わせて一つに



懸命プレーで 社会に希望を発信

校長 寺川 国仁

昨秋以来、選手たちが非常に濃い練習をこなして臨んだ甲子園——ベンチ入りした選手だけではなく、すべての野球部員で挑み、優勝した大会だと思っています。また、生徒、保護者のみなさまをはじめ、多くの方からの応援が優勝へ後押しする大きな力になったと感謝しております。この夏は、各地で豪雨と土砂災害による被災が伝えられる状況でした。このような時に、懸命なプレーで社会に元気を発信できたことは意義あることだったと思っています。



チャンス生かした 「負けたくない気持ち」

部長 有友 茂史

桐蔭が勝って校歌を泣きながら歌うのは初めてだと言われました。涙は、自信のなさの表れです。選手たちは不安で胸がいっぱいの中で戦ってきたのだと思います。彼らは負け覚悟でやっていました。自分たちの勝ちパターンが確立できない中でも、「負けたくない気持ち」が前面に出た大会でした。勝ちパターンがないから、その場におかれた選手が打ってつながり、チャンスを生かしました。このような戦い方ができたことは、選手たちの財産になったと思います。



勝つたびに たくましく成長

監督 西谷 浩一

このチームの原点は、コールド負けでセンバツ出場を逃した昨秋の大阪大会4回戦です。彼らは負ける悔しさを肌身で知ったはずですが、センバツに出られなかったからこそ、冬は質量ともじっくり練習しました。みんなでもがき悩みながら成長していきました。今大会では6試合中4試合が逆転での勝利。接戦を重ね、チーム力で勝つことでたくましくなっていきました。選手たちには、この輝いた日々を大事にして、はばたいてほしいと思います。



チームが結束 うれしい「日本一」達成

主将 中村 誠

日本一という目標を達成できてうれしいです。秋の大阪大会で負けて、甲子園出場のチャンスが夏だけになりました。心が折れましたが、挑戦者という気持ちでーから出直しました。秋の大会で相手を意識しすぎた反省から、結束して自分たちの野球を徹底したことで、チームの形が見えてきました。4人の副主将が僕の足りないところを補ってくれましたし、チームも変わってくれました。僕の決勝打は、みんなの思いが詰まって、外野の前に落ちたと思っています。



学園ニュースレター「ネオス」特別号
大阪桐蔭高等学校 硬式野球部
第96回全国高校野球選手権大会 優勝記念特集

2014年9月発行

発行元：学校法人大阪産業大学 総合企画室 学園広報課
〒574-8530 大阪府大東市中垣内3丁目1番1号 TEL：072-875-3001
<http://www.osaka-sandai.ac.jp>